

## 昆虫館の思い出

大江 峻弘

私が昆虫館に妹と通い始めたのは小学校3年生の頃です。当時の昆虫館は廃館になりかけていて、その運営をNPO法人こどもとむしの会が引き継ぐことになったと聞いたときの私は、あまり昆虫が好きではない小学生でした。

しかし家から近いので、よく遊びに行き、毎回むし好きのおっちゃんたちの話を聞くうちに、虫っておもしろいなと思いはじめました。昆虫が好きになり始めたころに、私の住んでいる町で大きな水害がおこりました。もっともっと専門的に虫を知りたいと思っていた矢先です。

水害から昆虫館が復興したころ、NHKの全国放送「日本紀行 ファーブルたちの夏」に出ることが決まりました。この時はびっくりしましたが、うれしい面もありました。毎週のように取材があり、昆虫好きのおっちゃんたちの話も聞けるし、一石二鳥でした。放送が終わってからは、「テレビに出た子」で有名になり、昆虫館に来てくれる人が増え、うれしかったのが思い出されます。そのうち、教えていただいたことを、皆に教えることが出来るようになりたい、昆虫好きの友達をもっと増やしたいと思うようになりました。

水害後は虫捕りを本格的にやり始めましたが、内心本当に虫が戻ってくるのか心配でした。しかし、水害後にも関わらず、たくさんの昆虫が戻ってきてくれ、驚きました。水害の前からずっと採集したかったミヤマカラスアゲハも採集することが出来て、本当にうれしかったし、また昆虫の生命力の強さにも驚きました。また、夏にナイターをして、クワガタムシを採り、友達と大きさ比べをしてよく遊んだのも楽しい思い出です。ほかにも色々昆虫館に思い出はありますが、とにかくたくさんの事を学ばせていただきました。この10年間昆虫館で教えて下さった先生方への感謝を忘れずに、これからももっといろいろな昆虫を少しずつ収集して、同年代の昆虫仲間を増やしていきたいと思っています。

(おおえ たかひろ 高野山大学)